

大学院の教育研究上の目的

【人文社会科学研究科】

教育目的

人文社会科学研究科は、「国立大学法人静岡大学の中期目標」に定める大学の基本的な目標及び教育に関する目標を踏まえ、地域社会・地域経済を担う人材育成を21世紀の課題と位置づけ、人文社会科学諸分野における実践的教育の展開を基本方針として、専門性と学際性、国際性と地域性を兼ね備えた高度専門職業人を養成することを目的としている。

研究目的

人文社会科学研究科は、「国立大学法人静岡大学の中期目標」に定める大学の基本的な目標及び研究に関する目標を踏まえ、人文・社会科学の広範な分野の研究において、次のような基本的目的を定めている。「静岡大学人文社会科学部学術憲章」(1) 基礎学の意義を適切に評価しつつ、個別分野ごとの研究を発展させると共に、多様な専門分野の力を結集して分野融合的研究を展開し、両者が補完的に発展していくようにすること。(2) グローバリゼーションが進む現代において、社会・文化・経済・科学技術・医療等の側面で生じる国際的な課題に多方面から学際的にアプローチし、人類社会の持続可能な発展に貢献すること。(3) 地域社会との連携・応答によって、新たな質の研究課題を設定し、社会に具体的に貢献できる研究を重視すること。(4) 未来に向けて現代の諸課題に取り組むために、過去の知的遺産を踏まえて、新たな知の創造を目指すこと。

【教育学研究科】

教育目的

静岡大学は、中期目標において、教育に関する基本的目標として、「デジタル化やグローバル化の進展、Society5.0 の到来といった社会の潮流を踏まえ、総合大学としての優位性を発揮した人材育成の取組を進める」ことを掲げている。

教育学研究科では、以上の本学の基本的目標を踏まえ、以下を教育目的としている。(教育学研究科規則第2条)

共同教科開発学専攻:教科開発学の究明を通じて、教科内容の構成原理を明らかにし、
教科教育の開発及び教育環境の創造、更に高等教育機関において、
高度な資質をもった教員の養成をするために必要な能力の育成。

教育実践高度化専攻:総合的な実践的指導力のある新人学校教員及び中核的中堅学校教員の養成。

研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

教育学部・教育学研究科は、以上の本学の基本的目標を踏まえ、学校教育・社会教育・科学教育等に関連する各専門分野において、以下の成果の創出を目的とする。

- (1) 幼稚園から小・中・高等学校，特別支援学校等を含む幅広い学校種及び多様な教科を対象とする教育方法，教育内容，生徒指導等に関するもので、学校における具体的な教育実践の指針となるような研究
- (2) 学校教育・社会教育・科学教育等で扱われている教育内容の学問的背景となっている各専門分野の最新の研究成果を踏まえ、それをさらに発展させるような研究
- (3) 学校教育・社会教育・科学教育等を取り巻く様々な社会的・文化的活動の学問的基盤となるような研究

【総合科学技術研究科】

情報学専攻

教育目的

静岡大学は、中期目標において、教育に関する基本的目標として、「デジタル化やグローバル化の進展、Society5.0 の到来といった社会の潮流を踏まえ、総合大学としての優位性を発揮した人材育成の取組を進める」ことを掲げている。

情報学専攻は、静岡大学の基本的教育目標および情報学部の教育目標を受け、「情報科学と情報社会学を融合させた情報学についての幅広く豊かな識見と、専攻分野についての高度な専門知識及び研究能力を基盤として、応用・実践に優れた職業適応力とコミュニケーション能力を備え、望ましい高度情報社会の構築に積極的に貢献しうる人材の育成」（総合科学技術研究科規則第3条第2項第1号）を教育目的とする。

研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

情報学部・情報学専攻は、以上の本学の基本的目標を踏まえ、コンピュータネットワークを中核とする急速な情報化の進展の中で、人間と情報技術が共生する豊かな情報社会の実現を、21世紀の課題として位置づける。そして、理工系の情報科学・情報工学とさまざまな文系の学問の融合をさせることで、「情報学」という新しい学問体系を創造することを目的とする。

この目的を達成することで、以下の研究成果の創出を目指している。

- (1) 情報を切り口とした人間や社会のあり方の解明
- (2) 情報と人間・社会のインタラクションの解明
- (3) 情報を活用する技術・方法の基礎的過程の解明
- (4) 情報活用技術・方法の開発
- (5) 情報活用技術・方法を基にした人間社会システムのあり方の提案

理学専攻

教育目的

静岡大学は、中期目標において、教育に関する基本的目標として、「デジタル化やグローバル化の進展、Society5.0 の到来といった社会の潮流を踏まえ、総合大学としての優位性を発揮した人材育成の取組を進める」ことを掲げている。

理学専攻は、以上の本学の基本的目標を踏まえ、「高度な科学技術社会の中で、基礎科学に基づいた問題解決能力を有する人材の育成を目指し、社会の多様なニーズに応えるための洞察力、適応力、行動力を養う教育」を行うことを目的としている。

研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

理学専攻は以上の本学の基本的目標を踏まえ、「自然界を支配する基礎理学法則の解明と、それによる自然環境との新たな調和を目指した人間社会実現への貢献」を21世紀の課題と位置づけ、理学の分野において、(1)「自由な研究環境のもと、基礎から応用にわたり独創的な研究を推進」(2)「それぞれの学術分野や学際領域における学術の一層の発展に寄与」(3)「国際的課題および地域的課題の発掘と解決に向けての情報発信」(4)「研究成果の公表および技術移転・特許化の推進」を基本方針として、以下の成果の創出を目的とする。

- (a) 自然界を支配する基礎理学法則の解明
- (b) 基礎理学的手法による宇宙・地球・生命・物質の根源的理解
- (c) 理学法則に裏打ちされた非経験的手法に基づく新技術の開発
- (d) 理学的アプローチによる環境調和型社会へ向けての情報発信

工学専攻

教育目的

静岡大学は、中期目標において、教育に関する基本的目標として、「デジタル化やグローバル化の進展、Society5.0の到来といった社会の潮流を踏まえ、総合大学としての優位性を発揮した人材育成の取組を進める」ことを掲げている。

工学専攻は、工学の分野において、「『仁愛を基礎にした自由啓発』の精神を尊び、人類の豊かな未来と学術の発展に貢献すること」を理念として掲げている。この理念の下に、豊かな教養と感性および国際的な感覚を身に付け、多様化する社会に主体性を持って柔軟に対応し、独創性に富んだ科学技術を創造できる人材を育成することを目的としている。

具体的には、本学が中期目標・計画において定める教育目標と本研究科の教育目的を踏まえ、体系的な専門教育を通じて、以下のような人材を育成することを目指している。

- (1) 高度技術社会に工学技術で貢献できる人材
- (2) 地域社会だけでなく国際社会でも活躍できる人材
- (3) 問題発見能力と問題解決能力を持った人材
- (4) 将来の職業に対して明確な目的意識を持った人材

研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

工学部・工学専攻は、本学の基本的目標を踏まえ、人類の豊かな未来を高度な科学技術によって切り拓くことを21世紀の課題として位置付け、工学の分野で、知の源泉となり世界をリードする創造的な基盤研究を推進すること、時代の要請に応える科学技術の発展に寄与すること、地域とともに世界へはばたく研究を行い地域の産業育成に貢献すること、環境共生に関連する領域に取り組むことを基本方針として、以下の研究成果の創出を目的とする。

- (1) 工学及び学際領域における独創的研究
- (2) 地域における「ものづくり」産業の育成を支援する新技術の創出
- (3) 環境問題解決への工学的寄与

農学専攻

教育目的

静岡大学は、中期目標において、教育に関する基本的目標として、「デジタル化やグローバル化の進展、Society5.0 の到来といった社会の潮流を踏まえ、総合大学としての優位性を発揮した人材育成の取組を進める」ことを掲げている。

農学専攻は、上記の本学の基本的目標を踏まえ、東海地域の豊かな環境や資源を背景に、環境・バイオサイエンスを基礎として衣食住を充足させるための学理や技術を深化させた教育を行い、地域や国際社会の持続的発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

農学専攻は、以上の基本的目標を踏まえ、人間と自然の共存する循環型社会の構築を21世紀におけるグローバル及び地域双方の課題として位置づけ、ミッションの再定義により高い研究成果を有するとされた応用生物化学及び植物科学を中心に、環境及びバイオサイエンスを基盤とする農学の諸分野において、衣食住を充足するための学理や技術を深化させることを基本方針として、以下の成果の創出を目的とする。

- (1) 栽培植物およびそれを取り巻く生物環境の遺伝子レベル～圃場レベルの解析、生物生産と環境（生産環境～人間環境）の融合
- (2) 生物機能の細胞、分子、遺伝子レベルでの解明、バイオテクノロジーを用いた新機能の創出・開発
- (3) 森林における環境保全機能の解明、森林の育成管理システムの確立、木質バイオマス資源の利活用における循環型社会の構築

【山岳流域研究院】

教育目的

静岡大学は、中期目標において、教育に関する基本的目標として、「デジタル化やグローバル化の進展、Society5.0 の到来といった社会の潮流を踏まえ、総合大学としての優位性を発揮した人材育成の取組を進める」ことを掲げている。

山岳流域研究院は、高度な専門科目群により養われる高度な専門性、フィールドを活用した実習等により身に付くフィールドスキル、分野横断型の履修により得られる幅広い視野、英語科目の履修や研究発表を通して磨かれるコミュニケーション能力を持ち合わせ、静岡はもとより、日本各地、更には海外において、流域が有する共通課題の解決に資する人材の育成を目的とする。

研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

山岳流域研究院は、気候変動や人間活動に伴う生物多様性の喪失や災害の頻発、都市域での経済循環が上流域へ及んでいないことによる中山間地の過疎化といった、流域が抱える課題を解決するために必要な研究を進めることを基本方針として、以下の成果の創出を目的とする。

- (1) 富士山や南アルプス、駿河湾をはじめとした地域の多様な自然環境を活用したフィールド研究により、自然環境の保全と社会・経済活動を両立する流域管理手法を開発
- (2) 木材などの森林資源を都市域で活用することで、都市域における経済循環を上流域へ波及させるとともに、都市域と中山間地の間での社会連携を促進するための手法を提案
- (3) 自然災害に脆弱な環境下においても持続的な社会を構築するために必要な、流域を俯瞰した自然管理手法および防災手法を開発

【光医工学研究科】

教育目的

先進医療において医療機器が果たす割合は世界的に増大し、我が国でも新たな医療機器の需要が高まっている。なかでも、超早期診断、予防医療、低侵襲診断・治療などの医療応用分野には、光に対する非常に多くのニーズがある。そのようなニーズに基づいて高度な技術や新たな価値を生み出し、世界の医療に貢献できる革新的な医療機器の開発や実用化を促進するためには、光・電子工学と光医学を融合させた「光医工学」分野の高度専門人材の育成が求められている。

そのような社会の要請に応えるため、本共同専攻では、静岡大学がもつ光・電子工学と浜松医科大学がもつ光医学の実績・環境を連携させた教育研究の場において、光医工学を修めると共に以下の能力を有する人材を養成することを教育の目的としている。

1. 専門知識と技能
2. 自律的学修能力と応用能力
3. 豊かな人間性と高い倫理観
4. 国際社会・地域社会に対する貢献力

研究目的

光・電子工学の技術・知見を医療・医学に活用・応用し、医療・医学の現場が抱える諸問題を解決するための技術を研究開発するとともに、光医工学を探求し革新的技術を創造することを研究の目的としている。

また、社会連携・産学連携においては、医療機関、企業、自治体との連携を通じた光医工学研究の成果の医療現場、社会への実装を進めるとともに、関連産業の振興と新産業の創出に貢献する。国際連携においては、海外の学術・研究機関と連携し、浜松に光医工学教育研究の世界拠点を形成することを目指す。

【自然科学系教育部】

教育目的

静岡大学は、中期目標において、教育に関する基本的目標として、「デジタル化やグローバル化の進展、Society5.0 の到来といった社会の潮流を踏まえ、総合大学としての優位性を発揮した人材育成の取組を進める」ことを掲げている。

創造科学技術大学院は、本学の基本的目標を踏まえ、時代に即応した幅広い素養と特化した専門知識及び国際性豊かな知識を有する先端技術者及び研究者を養成することを目的としている。具体的には、専門分野を極めつつ進展が期待される周辺分野の知識を学ぶ「T字型教育」を行い、創造力、自己解決力、コミュニケーション能力を有した博士人材の養成を目指している。

研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

創造科学技術大学院は、本学の基本的目標に基づき、科学技術分野の学理を極めつつ、時代の要請に応じた世界標準の研究を推進する。具体的には、以下の部門を設置して研究を実施し、成果を発信する。

(1) 光子・電子のナノ領域制御を画像工学に導入した先端領域を開拓するナノビジョンサイエンス部門。

(2) 光と量子エレクトロニクス融合分野を構築し、研究成果を社会へ還元するオプトロニクスサイエンス部門。

(3) 情報通信技術の進歩を支える技術基盤からAIの応用や社会実装に至る幅広い領域を多角的に研究するインフォマティクス部門。

(4) ナノサイズ材料を分子・原子レベルで制御し、革新的な材料と機能を創造することを目指すナノマテリアル部門。

(5) エネルギーに関する研究を推進し、低炭素型持続的社会的構築を目指すエネルギーシステム部門。

(6) 生命活動システムを分子、細胞、個体レベルで究明し、科学技術の進展へつなげる統合バイオサイエンス部門。

(7) 地球環境システムを理解し、生物多様性、生物進化、物質循環、地殻変動、地震防災、自然災害に関連する基礎研究および応用開発に取り組む環境サイエンス部門。

(8) 物質科学と数理科学を究め、科学技術の根幹をなす基礎分野の研究を進めるベーシック部門。